

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400425
法人名	有限会社ファミリエ
事業所名	グループホーム橙園
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内1-583-1
自己評価作成日	平成26年12月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

橙園の介護理念に添った介護に取り組んでいる。「一人にひとつできること」をケアプランに入れ、利用者に張りや自信を持って笑顔で暮らしていただけるよう支援している。文化祭や公民館のバザーなど、必ずお誘いがあり、みんなで参加している。小学校の運動会や学芸会に参加したり、園児たちのお祭りごっこの訪問があったり、お花見、つつじ見学等々、地域資源の力を借りながら、地域の住民として頑張っていけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者は「介護は接遇」と考えており、事業所内で接遇研修を実施している。職員は、利用者の気分の違い等も踏まえて言葉かけや対応方法も変えて対応されている。調査訪問時、職員は、昼食のお汁をテーブルに配る際、一人ひとりに、「熱いから気を付けて下さいね」と声をかけていた。職員は、食器を拭いたり、洗濯物をたたんだりすることをお願いするのではなく、「目につくところに置く」ことで利用者が「自発的に行う」ことにつながるよう、場面作りに努めておられる。

普段はご自分からあまりお話をされない方が、秋祭りの五っ鹿踊りの訪問があった際には、「昔踊っていた」ことを話されたようだ。施設長は、地域の方にお願ひして12番まである踊りをすべて踊っていただいた。その後もご本人は笑顔で五っ鹿のお話をされたようだ。利用者の「家族に迷惑をかけてはいけない」という思いから「ホームで最期を」と言われた方があったが、職員はご本人の普段からの思いを踏まえてご家族と相談して、最期はご家族が居る場所で迎えられるよう支援された。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) ○		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム橙園

(ユニット名) 水仙

記入者(管理者)
氏名 山下直子

評価完了日 2014年 12月 24日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 橙園の理念「心身の障害があっても私らしくあなたらしく豊かに。尊厳を守る介護」を意味を理解し、介護に取り組めるよう努力している。橙園園長の基本的な考え方、介護の根底、根源に必ず理念があることを常に職員に伝えており、職員は日々の介護につながるよう頑張っている。 (外部評価) 理念は、玄関や各ユニットに掲げている。管理者は、外部研修等で理念について勉強して、職員に伝達研修を実施し、事業所全体で理解して理念に沿った介護が実践できるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 「橙園夏祭り」は地域の方々、子供たちもとても楽しみにしてくださっている。他の施設(遠くは松山から)も、今年は4つの施設から利用者さんも一緒に参加してくださり、盛り上げていただいた。出店には婦人会、日赤奉仕団、ボランティア、業者の方々など皆さんに手伝っていただいた。地方祭ではお神輿や五つ鹿の訪問、園児たちのお祭りごっこの訪問もある。文化祭には作品を出展。小学校の運動会、学芸会の参加地域の防災訓練、地元公民館のバザーなど地域の方からいつも声をかけてくださり参加している。 (外部評価) 施設長は、開設時から「利用者は地域の住民である」ことを地域に向けて話してこられた。11月に地域で行われる「文化の集い」時には、利用者と職員と一緒に作った壁画の作品が展示された。作品作りの過程も写真付きで紹介して地域の方に見ていただけるよう工夫された。橙園夏祭りは、毎年多くの地域の方達の協力を得て開催されている。近くにある系列の小規模多機能事業所には、定期的に詩吟、カラオケ、民謡、押し花、大正琴、音楽療法等のボランティアの訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 一般公開の運営推進会議では、地域の方々、利用者家族、ボランティアの方々など、大勢の参加があり、橙園の日々の介護を報告したり、認知症介護についてのお話をしたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で「橙園だより」を配布し、活動報告にて利用者の日々の生活を伝えている。また職員の研修報告も行っている。4月の一般公開の運営推進会議では、橙園の運営方針や外部評価などについても報告している。数多くの意見、質問、要望があり、運営委員会、業務カンファレンスなどを通して職員に伝えている。	
			(外部評価) 会議は、近くにある系列小規模多機能事業所と合同で開催されている。年1回は「公開運営推進会議」を開催しており、今年も地域、ご家族、ボランティアの方々等60名程の参加があった。参加者からは、「認知症の事がよく解った」等の感想があるようだ。通常の会議には、利用者、ご家族はもとより民生委員、婦人会、日赤奉仕団、老人会の方等が参加されている。職員の健康診断結果がきっかけとなり、保健所の方の協力を得て、病気についての知識を深めるような研修を実施されたこともある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 八幡浜市の「地域密着型サービス連絡会議」に参加し、他事業所との意見交換の場となっている。今年度、傾聴ボランティアの研修(4回)があり、職員3名出席し、研修内容・感想など報告している。運営推進会議には市職員2名の参加が必ずある。月一回さわやか相談員さんの訪問もある。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、事業所からの報告を受け、市職員から助言等がある。職員は、八幡浜市主催の地域密着型サービス連絡会議や傾聴ボランティア講座、糖尿病サポーター研修に参加して、業務やケアに活かせるよう努めている。毎月2名のさわやか相談員の訪問がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 業務マニュアルの中に「身体拘束マニュアル」があり、職員は必ず目を通して周知することになっている。基本的に玄関の施錠はしない。2つのユニットとデイサービスが続いているので、自由に行き来できる。見守り、声かけ、一緒に散歩したり、利用者の思いに添った介護をしたいと頑張っている。	
			(外部評価) 日中は玄関等に施錠せず、又、利用者が併設デイサービスやユニット間でも自由に行き来ができるよう支援されている。調査訪問時、一人で出かけて行く利用者に職員が付き添って行く様子が見られた。職員は、利用者の所在確認に努め、さらに、自発的に行えるような作業等を用意する等して、利用者の役割作り等にも取り組まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 業務マニュアルに「虐待防止マニュアル」がある。日々の介護の中で絶対にしてはいけないこととして、職員全員が周知している。言葉遣いが言葉の暴力につながることをケアカンファレンス等にて話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 市の研修会にて権利擁護に関する研修があり、職員多数が参加した。事業所で研修報告している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入退去及び契約・解約は施設長がご家族に説明し、双方納得で成立している。必要事項に応じて、管理者、介護支援専門員、医療連携看護師が同席し、役割分担している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者に関する運営事項には、都度、各ご家族、後見人に文章説明し同意を得ている。介護保険上の情報に関しては、運営推進会議の議題として年一回地域に一般公開している。 (外部評価) ご家族へは個別の便りを作っており、健康状態、作業活動、交流、連絡事項の項目に沿ってコメントを記入して送付されている。連絡事項として職員の紹介等も記入されている。偶数月には、系列事業所と合同で発行する「橙園便り」も同封されている。利用料を持参するご家族には、「何でも言ってください。その方がありがたいです」と意見をうかがい、気になることがあれば電話をくださるご家族もある。	事業所サービスを実際に利用する側からの声を集めながら、さらに今後の取り組み等について話し合ってみてはどうか。開設10年を迎えるこの機会を活かして、利用者の人らしい暮らしを、ケアパートナーでもあるご家族とともに支えていけるような取り組みを工夫されてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	園長、各管理者、各係の責任者が、月一回の運営委員会をひらき、運営に関すること、職員の勤務状況、行事予定など話し合っている。月初めの業務カンファレンスでも、職員からの意見や要望などを聞くこともある。	
			(外部評価)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	研修実績、研修報告などの状況を把握し、アンケートなども行い、職員が向上心を持てるよう配慮している。希望休を受け入れ、夜勤ができない、早出あるいは遅出ができない等それぞれの希望にそっての働き方ができている。	
			(外部評価)		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	全職員がそれぞれに適した研修に参加し、報告書を提出。業務カンファレンスや運営推進会議などで発表している。園内研修(勉強会)も行い、必ず研修報告を出してもらっている。実践者研修、管理者研修の受講、また、介護福祉士、ケアマネなどの資格取得も頑張っている。	
			(外部評価)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	他施設の運営推進会議に構成員として参加している。また橙園の構成員にもなってもらっている。八幡浜市地域密着型サービス連絡会議に出席してそれぞれの施設の問題点を出し合ったり、研修を通してサービスの質の向上のための勉強をしている。	
			(外部評価)		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	傾聴の姿勢で利用者の困っている事、要望などをお聴きする。自分の気持ちをうまく表せない方は、ご本人をしっかりと観察したり、向き合ったり、寄り添うことで気持ちや思いをくみ取り、安心していただけるよう努めている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、安心していただけるよう重要事項の内容をしっかりと説明している。ご家族が困っている事や不安、ご要望等をお聞きし、施設サービス計画書(1)(2)、ケアプランを示しながら、支援内容や介護の考え方などをお伝えし、納得していただけるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者をしっかり観察し、向かい合う、寄り添うことで、本当のニーズを見つけている。ご家族とよく話し合いながら暫定プランを見直している。デイサービス、小規模の力も借りながら支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 楽しい会話をしながら一緒に食事をとっている。利用者どうしの会話の中に入っておしゃべりしたり笑ったり、食事の準備、後片付け、洗濯物干し、たたみなど、日常生活の作業と一緒にする中で、助け合って支えあっていることを示したいと努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何かあればすぐにご家族に連絡を入れ、安心していただいている。利用者さんについて常に相談し、話し合いながら、ご本人にとってよりよい支援ができるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 毎年利用者全員が家族などに年賀状を書いている。また、お正月にはたくさんの年賀状が届く。2月初め頃には橙園で採りたいよかんを、利用者さんの手紙を添えて家族に送っている。家族をはじめ、孫、姪御さん、お友達など、いろんな方の面会がある。 (外部評価) 毎年、利用者個々の大切な人へ年賀状を書くことを支援されている。利用者から「自宅に帰りたい」と希望があれば、利用者の気持ちをご家族の方に伝える等して、事業所でも一緒に支援されている。毎日利用者に会いに来られる親族の方には、利用者と一緒に食事しながら過ごせるよう、食事を用意されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いの部屋を訪問し合っている利用者さんもいる。気の合う方どうして並んだり、向き合ったりして食事が楽しくできるような席の配慮をしている。夕食後の団らん時、ソファに2,3人が並んで座り、楽しそうにお話されている。隣のユニットに奥さんや同級生がいる方は、訪問し合っている。他の利用者さん全員の名前を覚えて、名前を呼んで話をされる方もいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院のため退去されても、お見舞いに行ったり、ご家族よりご相談があればお聞きし、関係を大切にしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) フェイスシートで思いやご希望を知り、施設サービス計画書(1)で介護の意向、要望をうかがい、作成している。ご本人をしっかり観察することで深い思いの把握に努めている。入居時、また状態変化時、緊急時の対応、困難時の対応について、意向、希望など話し合っている。 (外部評価) 普段はご自分からあまりお話をされない方が、秋祭りの五つ鹿踊りの訪問があった際には、「昔踊っていた」ことを話されたようだ。施設長は、地域の方をお願いして12番まで踊りをすべて踊っていただいた。その後もご本人は笑顔で五つ鹿のお話をされたようだ。利用者の「家族に迷惑をかけてはいけない」という思いから「ホームで最期を」と言われた方があったが、職員はご本人の普段からの思いを踏まえてご家族と相談して、最期はご家族が居る場所で迎えられるよう支援された。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 居宅、デイサービス、小規模多機能などの担当のケアマネから提供された基本情報や、ご本人、ご家族から伺った情報により作成したフェイスシートにより把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人、日課表を作成している。「毎日の記録」にてバイタル、服薬、食事、排泄、精神状態、レクリエーション等、一日の生活の状態を把握し、それを介護記録に記入している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 3ヶ月ごとに担当者が介護記録をもとにモニタリングをとっている。毎月の家族へのお便りにカンファレンスのお知らせをしている。看護職員が受診状況を報告し、担当者がモニタリングをもとに気づきなどを発表、介護計画作成者はケアカンファレンス資料をもとに下準備して臨んでいる。ご家族やかかりつけ薬局の薬剤師も参加してもらったこともある。「一人に一つできること、続けられること」を必ずプランに入れている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、利用者ごとに「1人にひとつできる事、続けられる事」を採り入れて作成されている。できる事、続けられる事は、利用者ごとに一覧表にして居間に掲示されていた。介護記録は、医療、身体、精神状況、家族、他者交流等の項目に分けて記録しており、毎月行うケアカンファレンス時の資料にしたり、3ヶ月ごとにモニタリングして計画見直しにつなげておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録に傷病名、定期薬、短期目標、受診などを入れている。職員全員がプランに沿った介護ができるよう工夫している。その介護記録により3か月ごとのモニタリングをとり、ケアプランを見直している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 外食等の突然の外出や外泊にも対応したり、橙園に面会に来られた方に利用者さんと一緒に食事をしていただき、喜ばれている。また、孫の結婚式に京都まで行かれた利用者さんもおられた。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 三世代ふれあい運動会や学校の運動会、公民館活動に参加。文化祭に作品を出展したり、ボランティアさんや保育園児、小・中・高校生が訪問して触れ合いの時間を持ったり、皆さんで支援して下さっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医として利用者さんが入居前からの主治医に診ていただいている。変更のご希望があれば、ご本人、家族と話し合っ決めてる。受診にご家族が同行されることもある。医療連携の充実により、全てに対応し適切な医療が受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 以前から診てもらっている病院に、続けて受診できるよう支援されている。定期受診時には、看護師資格を有する職員が同行して、結果については、電話でご家族に報告されている。月1回、歯科医の往診・歯科衛生士の口腔リハビリの訪問がある。皮膚科の往診も受けれるようになっている。急変時には、近くにある個人医院の往診が受けられるようになっており、土日にはかかりつけ医と相談して救急車を呼ぶようになっている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 毎朝、夜勤者より看護師、日勤者へ申し送りがある。それにより、その日の対応などの指示を受ける。利用者小さなことでも状態の変化や異常があれば、看護師に報告している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 当グループホームは医療連携がある。病院の医師や連携室とつながっており、入退院の対応、突発的な受診の対応など、医療連携にて関係づくりができています。何かあるとすぐ医師に相談でき、夜間でも対応していただいている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化した時、看取りについてなど、入居時にご意向やご要望をうかがっている。またその都度、状態に合わせてご家族と何度も話し合い決定している。そのたびにカンファレンスを開き、ケアプランも見直し、ご家族の意向、医師の指示に添ったケアを職員全員ができるように努力している。</p> <p>(外部評価) この1年間に3名の利用者を看取られた。医療機関の協力を得て口腔マッサージや食事形態を工夫して、最後まで口から食べられるよう、力を入れ支援された。秋祭り時は、居室の中に獅子舞に入ってもらい、頭をパクパクしてもらった。又、誕生日には、利用者が居室に入って歌をプレゼントされた。施設長は、終末期の支援について「今日一日の安心感や満足感を感じていただきたい」と話されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時、急変時、緊急時、救急車の要請時などマニュアルがあり、よく見える所に掲示している。消防署の研修に参加し、初期対応、AEDの使い方などを勉強した。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年二回は消防署立ち合いのもと避難訓練を実施し、消防署より指導を受けている。その他、施設独自での避難訓練も行っている。地域で実施される防災訓練(津波など)にも参加し、高台の公民館まで利用者を連れて上がった。また、原発事故発生時のマニュアルも県に提出し、事故発生時は松山のグループホームに避難できるよう願っている。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力のもと避難訓練を実施しており、さらに、事業所独自で月1回、夜間・日中の火災等を想定した避難訓練を行っている。市が実施した防災訓練時には、利用者と一緒に公民館へ避難できるよう取組まれたが、坂道が急であり、「車いすでの避難ができない」ことが解ったようだ。事業所は原子力災害の危険区域でもあるため、避難訓練計画書を作成し、松山市に受け入れ事業所を確保している。食料品やおむつ等を事業所事務所に備蓄しており、消費期限のある物は交換等して管理されている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 業務カンファレンス、ケアカンファレンス時、理念や接遇の話をしたり、勉強会も行った。利用者に接するときの表情、何気ない立ち居振る舞い、声のトーンに気を付けた声掛けをする。一人一人をよく知り、それぞれに応じた接し方ができるよう心掛けている。	
			(外部評価) 管理者は「介護は接遇」と考えており、事業所内で接遇研修を実施している。職員は、利用者の気分の違い等も踏まえて言葉かけや対応方法も変えて対応されている。調査訪問時、職員は、昼食のお汁をテーブルに配る際、一人ひとりに、「熱いから気を付けて下さいね」と声をかけていた。職員は、食器を拭いたり、洗濯物をたたんだりすることをお願いするのではなく、「目につくところに置く」ことで利用者が「自発的に行う」ことにつながるよう、場面作りに努めておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員は利用者一人一人をよく観察し、よく知る努力をしていき、その上で傾聴の姿勢で寄り添い、信頼関係を築いていけるよう頑張っている。自己決定の支援は難しいが、その日に着る服と一緒に選んでもらったり、その日に食べるおやつを選んでもらったりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人それぞれプランに合った日課表がある。夜間眠れないで朝起きれない人は、朝食をずらしたり、日中お昼寝をしてもらったりしている。居室でゆっくり休みたい方がいたり、ユニットで少し落ち着かず他のユニットでしばらく過ごすことで落ち着かれたり、その日その日の体調や精神状態も見ながら支援し、3か月ごとのケアカンファレンスで話し合っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容師の資格を持っている職員が定期的にかットしている。希望される方にはパーマもかけている。とてもおしゃれだった方が車いす生活になり、言葉での意思表示もできなくなったが、ケアプランに「おしゃれを楽しむ」を入れ、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お正月のおせち料理やお祭りの郷土料理、誕生会では手作りケーキ等、行事やイベントに合わせた献立になっている。お花見に行ったり、園庭でいもたきをしたり、楽しみになるよう工夫している。巻き寿司を一緒に作ったり、ケーキにデコレーションしたり、後片付けも一緒にしている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が献立を作成し、ユニットごとに調理されている。パンの好きな利用者が多く、週1回、朝食はパン食になっている。好き嫌いのある利用者や塩分制限の必要な方にはメニューを変更したり、薄味にして対応されている。調査訪問時、昼食前に職員指導のもと口腔体操を行っていた。刺身を好む方が多く、週1回は刺身がメニューに上がっている。又、雑煮が大好きな方も多く、利用者の嚥下状態に応じておもちを小さく切る等、咽に詰めるような危険がないようにして支援されている。食後、自分の食べた食器を下膳して、水道で洗い流してから洗いおけに入れる利用者の様子が見られた。台拭きをする利用者もあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 副食はその人に合わせた大きさに切ったり、カレーや丼は混ぜない、シチューやあんかけのトロミはつけない等、その方の状態や習慣に合わせている。塩分制限、水分制限、体重制限のある方へ、一人一人に合わせた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 2名の利用者は歯科医師の往診により口腔指導を受けている。毎食後の歯磨きを声かけ、見守り、介助に行っている。義歯の方は毎食後、義歯洗浄の介助を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>夜間尿漏れがあるが、ご家族の希望もあり布パンツで対応している方、夜間は尿パッド対応だが、日中ははずしている方、夜間はパッド交換だが日中はトイレで排泄している方等、お一人一人に合わせた排泄支援を行っている。ケアカンファレンスで話し合い、「トイレでの排泄を大切に」などのプランに沿って支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前、尿管カテーテルを留置している方があったが、排尿訓練を行い、現在は布パンツで排泄が自立しているようなケースがある。普段は紙パンツを使用するが、状態に応じておむつで対応する等、体調をみながら支援を探っているようなケースがある。夜間においても、ポータブルトイレは使用せず、トイレで排泄できるよう支援されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>独自の排便チェック表を作っており、夜勤者がチェック。明けに排便の状態を必ず申し送っている。(マグミットの調整、下剤使用の確認) 氷水や冷たい牛乳を飲んだり、排便予定日にはトイレに少し長めに座ってもらったり、腹部マッサージをしたり、入浴したり等の工夫をして排便を促し、便秘予防に努めている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>必ず週二回の入浴を行っている。(できない時は全身清拭)入浴拒否が見られるときは、「今日は道後温泉のお湯ですよ」と声かけしたり、トイレのタイミングと合わせたり、理解できる方にはきちんと説明して納得してもらったりしている。入浴中は、気持ち良いのと1対1ということもあり、ゆっくり話をしたり歌を歌ったり、楽しくゆったりした時間になるよう心掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>午後に週2回入浴を支援されている。介護度重度でベッド上で生活する方は、清拭で対応し、手や足浴を支援されている。入浴を好まない方は、たとえば「温泉のお湯ですよ」と言って誘うこともあるが、それでも難しい方には、「週2回が決まりになっている」ことを伝えて入浴につなげている。夕方や夜間の入浴を希望する方もあるが、職員の体制上対応が難しいことをお話しして納得してもらっている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>就寝前には必ずトイレの声かけ誘導をしている。就寝時間は一人一人に合わせている。なかなか眠れない方は、しばらくリビングで過ごしてもらい、眠くなったタイミングを見てベッドに横になってもらう。夜間は安眠を重視し、睡眠を妨げないよう排泄パターンによりパッド交換、トイレ誘導を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ケアカンファレンス時、看護師より利用者が現在服用している薬の説明がある。服薬介助した職員は介護記録に明記し、責任を持つようにしている。介護記録には傷病名、定期薬が書かれている。薬局からもらった「お薬情報」が各ユニットにあり目を通して。かかりつけ薬局の薬剤師さんにケアカンファレンス時、勉強会として薬の副作用などについて話をしてもらった。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 「一人にひとつできること」「毎日続けていること」等一人一人に合わせたプランを立てて支援している。食事の前の「いただきます」の号令を言ってもらい、洗濯物たたみ、食拭きなどを手伝っていただき、役割があることで張りや喜びを感じられている。編み物やつくろい等も頑張っておられる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出はなかなかできていない。家族さんと外出の機会がある時はとてもうれしい様子。近くの神社に初詣で、御神楽見学、輪抜け、地方祭の出店、お練り見学、公民館へ文化祭、バザーに行ったり、お花見、つつじ見学、コスモス見学など地域の人々の協力を得ながら外出支援している。 (外部評価) 日常は、近くの畑での農作業のため、外に出たり日向ぼっこできるよう支援されている。又、近くの系列小規模多機能事業所での行事に参加することも、大切な外出の機会となっている。近所の神社に初詣に出かけたり、つつじ、さくら、コスモスの季節には、スーパーで利用者の好みの弁当を購入して出かけている。利用者の中には、「寝とった方がええ」と言われる方もあるようだが、「皆で一緒にいきましょう」と誘うと出かける気持ちになるようだ。	事業所で計画を立てて外出する機会はあるが、さらに、利用者の希望に沿った個別の支援等についても工夫されてはどうか。ご家族と外出を楽しめるようなサポートや、仲良し同士で出かけるような機会等にも取り組まれてはどうか。管理者は、今後、職員2名で同行する等して、個別の買い物も支援したいと話しておられた。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持している利用者は現在はいない。(以前は、管理はできないが持っていることで安心できるという理由で所持されていた)バザーや文化祭に行くとき、夏祭りの出店に出かける時など、一人一人財布を持って、その中に1000円程度入れて、自分で好きな物を選んで買い、お金を使うことの喜びやドキドキ感を味わっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族から電話がかかってきたら本人にも取り次いでいる。年賀状を毎年家族に出している。いよかんなど贈り物をしたときは必ず利用者さん直筆の手紙を添えるなどの支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファがあり思い思いにくつろがれている。和室は座るのにちょうどよい高さになっており、腰かけたり和室に上がって洗濯物をたたんでもらったり、寝転がったりもされている。玄関やリビングの洗面台にはいつも季節の花が飾られている。花は園庭から摘んできたり、家族さんからいただいたり、職員が持って来たりしている。	
			(外部評価) 玄関前には門松が飾られてあり、花壇にはパンジーや葉ぼたんが植えられていた。入口までは両側にスロープが設置されている。居間の一角は、一段高い畳の間になっており、来客者が過ごしたり、利用者が洗濯物をたたんだり横になってくつろぐ場所になっている。洗面台等の各所には水仙の花が飾られていた。居間には、加湿器を設置して湿度管理をされている。敷地内には東屋があり、気候のいい時はお茶を飲んだりされる。秋には畑でさつまいもの収穫を楽しまれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 日中はほとんどリビングで過ごされることが多い。ソファでボーっとされていたり、和室で横になったり、ソファで2、3人で座って楽しそうにお話しされている。隣のユニットからも思い思いにやって来られて一緒に過ごしている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には家から持ってこられたタンスやテーブルなどを置かれている方もいる。壁には家族さんとの写真やお孫さんの写真や手紙などが貼ってある。寝具も持ってこられて、「私の布団よ」と言ってベッドで休まれたりしている。	
			(外部評価) タンスやテーブル等を持ち込んでいる方もいる。居室は利用者の身体状況に合わせてフローリングにベッド、畳にベッド、畳に布団と、それぞれ利用者の状態に応じて対応されている。布団の上げ下げをご自分で行う利用者もある。お孫さんの結婚式に出席した際の写真を飾っている方もあった。各居室前には、それぞれに輪じめが飾られていた。利用者が居室不在の時間は、窓を開け換気している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ユニット内、浴室、トイレなどすべてに手摺りがついている。居室は一人一人のADLの状態や個性に合わせている。畳に布団を敷く方、畳にベッド、床にベッドの方がいて、ベッドには立ち上がりのための手摺りを付ける等、できる範囲で自立支援を行っている。	
			(外部評価)	